

挑戦者たちの軌跡、フィールドの記憶

RECORD

2013.11・12 VOL.34



シーズアスリートのみなさんに「2014年の抱負」を教えていただきました!

抱負 2014



Lecture [講演会]

□10/25 「仲間とともに今を生きる」

福岡市立春吉中学校(福岡市)

熱心な姿と純粋な心に触れて



熱心な姿と純粋な心に触れて

頑うだけでは何も変わらない。行動できたらこそ困難を乗り越えて今がある—そんな自分の半生を授業の一環として約200名の3年生に聴いていただきました。熱心に耳を傾ける姿と、休憩時間に話しかけてくれたり競技車に興味を持つてくれたり純粋な心に触れることができ、有意義な時間を過ごせました。今回の話が、いつか何かのきっかけになれば幸いです。(川野将太)

講演担当者様の声

川野さんの誠実なお話ぶりと、その感動的な内容に生徒達は集中して聞き入ることができました。また休憩時間には気さくに話したり、お持ち下さった優勝トロフィーにそっとさわったりして、よい時間過ごすことができました。多くの生徒が、川野さんのたくさんの努力や夢に向かって頑張る姿に共感し、自分たちの今後の生き方について真剣に考えることができたようです。素晴らしい学びの時間になりました。

福岡市立春吉中学校 教諭 青木 佳代 様

講演実績

- 2013/8/17 宗像学校医会 宗像小児科医会【浦田】
- 2013/8/21 熊本県教育委員会【浦田】
- 2013/9/10 福岡県立福岡視覚特別支援学校【小宮】
- 2013/9/24 フコくんらい生命保険(株)【小宮・信沢】
- 2013/9/29 気緒地区防災協会【浦田】
- 2013/10/8 株式会社 トゥルース【工藤】
- 2013/10/26 第67回全国レクリエーション大会・福岡大会【川野】

講演会・競技体験会お気軽にお問合せ下さい

シーズアスリートは世界の頂点を目指す選手による、企業・学校・自治など各方面に向けた講演会・競技体験会を実施いたします。障害という境界を味わい、暮らし、スポーツと出会い目標をもつことで今まで抱いてきたアスリート、彼らの経験を通しての方に「元気・勇気・感動」をお伝えします。学校での人権学習や企業でのモチベーションアップ講座など、お気軽にお問い合わせください。

New [新規法人会員ご紹介]

6月より「株式会社リコクリエイト」様、9月より「一般社団法人宗像医師会学校医会」様、「株式会社茂吉商店」様、10月より「株式会社フランソア」様に法人会員としてご加入いただきました。支えてくださる皆様への感謝の気持ちを糧に仕事も競技も良い結果をだし、元気・勇気・感動を伝えるため、努力して参ります。



人会員としてご加入いただきました。支えてくださる皆様への感謝の気持ちを糧に仕事も競技も良い結果をだし、元気・勇気・感動を伝えるため、努力して参ります。

Athlete's A to Z

知りたいアスリート雑学【車いすテニス】

川野選手が参戦している大会には格付けがある?

ITF(国際テニス連盟)公認の車いすテニス大会は、賞金総額やドローサイズ(出場者数や組み合わせ)など運営規模に準じてグレードの高い順にグランプリスマム、スーパーシリーズ、ITF1シリーズ、ITF2シリーズ、ITF3シリーズ、フェューチャーズシリーズに分類されています。

Member company [会員企業様]

特別会員企業

総合メディカル株式会社
麻生セメント株式会社

2013年度新規特別会員企業

フコくんらい生命保険株式会社

2013年度新規法人会員企業

株式会社多屋別荘
株式会社健康家族
株式会社ビーアンドトコム
株式会社ログエイト
一般社団法人宗像医師会学校医会
株式会社茂吉商店
株式会社フランソア

法人会員企業

西部ガス株式会社
西日本鉄道株式会社

高松製薬株式会社 学校法人専修学校コンピュータ教育学院 学校法人大村文化学園 九州電力株式会社 株式会社九電工 株式会社サンマーク 麻生商事株式会社 株式会社ユコーエス 株式会社増屋 株式会社麻生 株式会社博報堂 九州支社 エフコープ生協組合 株式会社アワーアルフ 株式会社ニバースクリエイト 株式会社福利厚生俱乐部九州 株式会社マイマ 株式会社アラーム 学校法人麻生麻生専門学校グループ 麻生健康保険組合

九州東邦株式会社 株式会社アリックス 株式会社エアルゼ タイジ株式会社 日本電算システム株式会社 株式会社ソウル・アーキテクティングサービス 株式会社ソウル・システムリヨーナン フォーシーズ株式会社 株式会社アスムブネット 医療法人ハナ発心会 姫野病院 中村産業株式会社 麻生教育サービス株式会社 株式会社ロゴーション・インターナショナル 株式会社ジムテクノシステム 株式会社ソラーラ本家福砂屋 株式会社ア久原本家 株式会社ケケ 株式会社アスラ本家福砂屋 株式会社ユーマンテクニクシステム 株式会社ノゾ 株式会社エフジエイ ホテルズ 新日本製薬株式会社 学校法人博報堂学園 株式会社宣羽物産(順不同)

協力会社

有限会社スタジオクリエイションプラン
代表 手島雅弘
国内外の大会に同行し、記録写真を撮影していただいている。
有間会社サポート(トレーナールーム天神)
代表 窪田尚男
C'sAthleteのオフィシャル治療院です(専属トレーナー)。
air studio 日高 康智
studio AFTERMODE 市川亮
木原 広正
大会の記録写真等の撮影を行っています。
加江トーハートレーニングスタジオHDL
C'sAthleteに物品を提供していただいている。
オフィスB4 林 駿起
[RECORD]の選手インタビューやライティングを担当していただいている。

C's Athlete member [シーズアスリートメンバー]

主たるメンバーはバリバリピックのメダリストたちです。



RIMIYA ITO C's Athlete リーダー

工藤 力也

ゴルボル選手
1981年 福岡県生まれ
19才でレーベル病になり視力低下
(株)アソウ・ヒューマニセンターサブ

Guidance of admission [入会のご案内]

シーズアスリートではみなさまのご支援をお待ちしております。

会費

特別会員 障がい者スポーツ選手雇用の上、本センターへ出向及び運営費として年間60万円

法人会員 年会費36万円(3万×12ヶ月)

個人会員 年会費1万円

会員サービス

特別会員 1.会報誌「RECORD」の進呈
関連イベントご案内及びご招待
2.30分理療の利用(10回×12ヶ月)
もしくは無料講演会開催(原則1回)法人会員 1.会報誌「RECORD」の進呈
関連イベントご案内及びご招待
2.ヘルスキー・30分無料個人会員 1.会報誌「RECORD」の進呈
関連イベントご案内及びご招待
2.ヘルスキー・30分無料券(1,000円分)2枚
3.ヘルスキー・利用回数制限なし

TEL 092-711-1800

会費は全てシーズアスリートの遠征費及び運営費に使用させていただきます。

C's Athlete

検索

http://athlete.ahc-net.co.jp/

□8/27~9/1 US Open USTA Wheelchair Tennis Championships
(アメリカ/セントラル)□9/5~6 Birmingham Canadian Wheelchair Tennis Classic
(カナダ/トロント)

□10/17~20 Peace Cup(広島国際車いすテニス大会)

初の世界戦と半年ぶりのマラソン実戦(川野)

実り多きアメリカ・カナダ遠征(川野)

熱心な姿と純粋な心に触れて(川野)

活動予定

●11/3 ニューヨークシティマラソン2013(アメリカ/ニューヨーク)【川野】

●11/13~11/12 ゴールボル2013アジアセニア選手権大会(中国/北京)【小宮・浦田・信沢】

●1/24~1/26 モントリオールオープン(カナダ/モントリオール)【小宮・浦田】

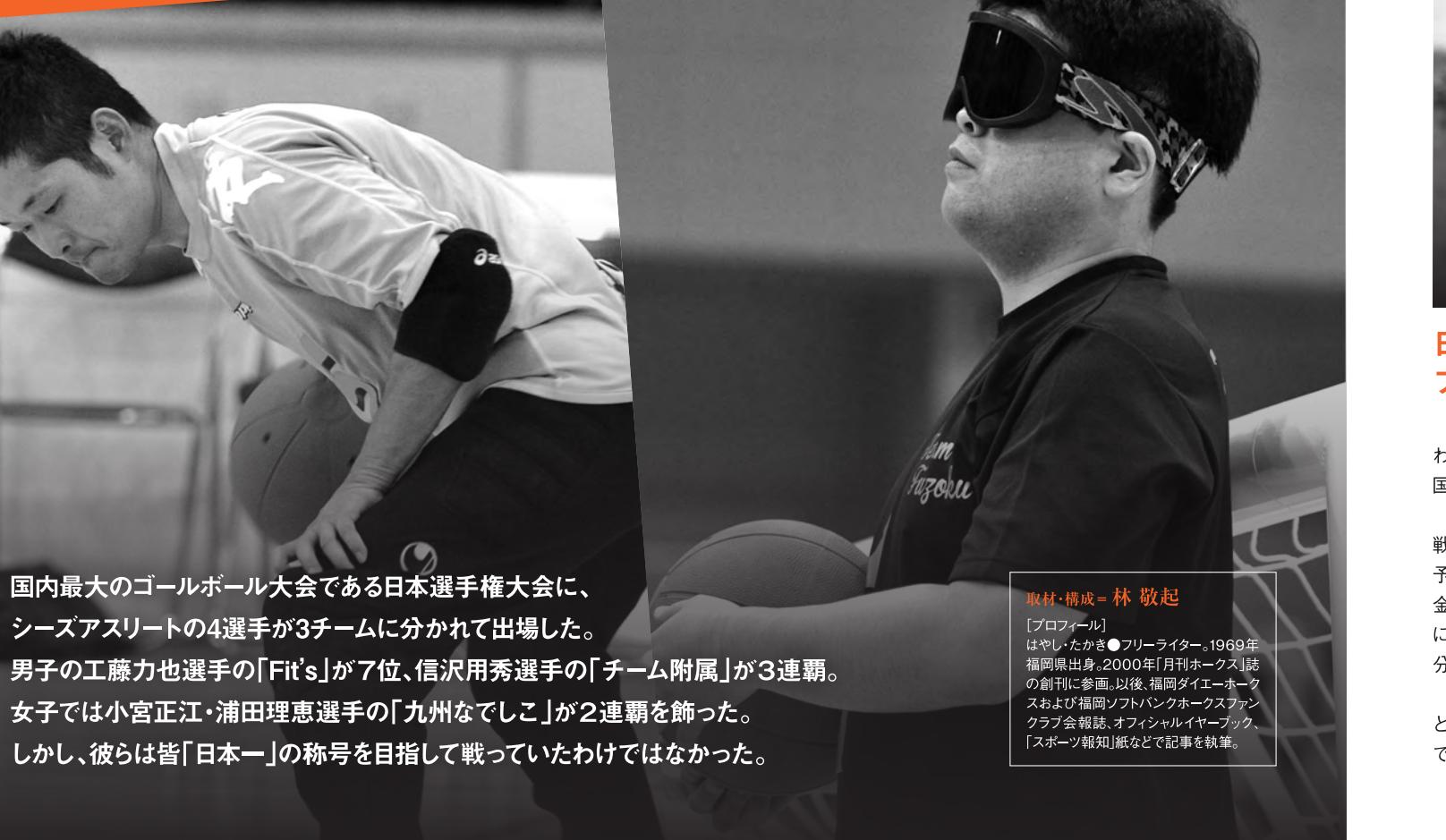
●11/29~12/1 NEC全日本選抜車いすテニス選手権大会(千葉)【川野】

●2/23 東京マラソン2014(東京)【川野】

SPECIAL ISSUE [特集]

「日本一」より大事なものもある — それぞれの日本選手権 —

10月 2013 日本ゴールボール選手権大会兼スポーツ祭
12・13日 東京2013オープン競技



国内最大のゴールボール大会である日本選手権大会に、
シースアスリートの4選手が3チームに分かれて出場した。
男子の工藤力也選手の「Fit's」が7位、信沢用秀選手の「チーム附属」が3連覇。
女子では小宮正江・浦田理恵選手の「九州なでしこ」が2連覇を飾った。
しかし、彼らは皆「日本一」の称号を目指して戦っていたわけではなかった。

取材・構成=林 敬起

「プロフィール」
はやし・たかき ●フリーライター。1969年福岡県出身。2000年「月刊ホーカーズ誌」の創刊に参画。以後、福岡ダイエーカークスおよび福岡ソフトバンクホークスファンクラブ会報誌、オフィシャルイヤーブック、「スポーツ報知」紙などで記事を執筆。



信沢 用秀

YOUSU NOBUSAWA

常に前を、
上を見て戦っていきたい

筑波大学附属盲学校の学生と卒業生で構成する「チーム附属」のキャプテンとして臨んだ今大会、競技歴の浅い選手を全試合に出場させながら、自分以外にも日本代表選手が所属するチームとして優勝して当然というプレッシャーの中で3連覇できて安心しています。しかし、1次予選の決勝で本選出場が決まった気の緩みから負けてしまい、また本選の予選リーグで点差が開いて勝ちが濃厚になるとプレーが難になり、貪欲に加点できなかつことは反省点です。

信澤選手は大会3連覇を果たし、今後の日本代表を背負っていく選手ですが、私は今大会で彼のチームにも負けて結果を残せず、大会後の日本代表選考でも落選して悔しい立場にいます。その現実を諒虚に受け止め、彼の成長と活躍を発奮材料にして日本代表に復帰することが現在の目標です。ヘッドコーチを務めたアジアユース大会で「工藤さんに憧れている」と言ってくれた若手のためにも、まだ“過去の人”になるわけにはいかない。そう強く自分に言い聞かせ、必ず結果で証明してみせます。

来年か再来年の日本選手権にはチーム附属を2つに分けて出場し、仲間同士で優勝を目指しながら男子ゴールボール界を活性化させたいと思っています。現状に満足せず常に前を、上を見て戦っていきます。



小宮 正江

MASAE KOMIYA

日の丸を背負うより
プレッシャーは大きいかもしれません

ロンドンパラ金メダリストの私と浦田選手が所属するチームが国内で負けるわけにはいかず、勝つべきだと思っていました。そういう意味では、日の丸を背負う国際大会よりプレッシャーは大きいかもしれません。

競技歴1年未満の選手を新たに加えた今年は、2連覇を目指すというより挑戦者の気持ちで臨みました。その彼女に経験を積ませながら結果にこだわった予選リーグでは守備を重視して3試合で計1失点、2勝1分けの1位。決勝では、金メダリストの1人で去年までチームメイトだった安達選手率いる新チーム相手に積極的に攻めて勝利しました。作戦は概ね成功しましたが勝ちにこだわった分、新メンバーの出番が少くなってしまったことは反省しています。

女子ゴールボール界の今後を考えると確かに勝つべきチームがあるのではとも思いますが、次世代を担う選手の奮起をあらためて促すことができた点で、私たちが優勝してよかったです。

女子ゴールボール界の今後を考えると確かに勝つべきチームがあるのではとも思いますが、次世代を担う選手の奮起をあらためて促すことができた点で、私たちが優勝してよかったです。

GOAL BALL

WHEEL CHAIR

Match Triathlon/Marathon [パラトライアスロン/車いすマラソン]

□9/13 ITU世界パラトライアスロン選手権大会(イギリス/ロンドン)

□10/27 第33回大分国際車いすマラソン大会



Match Tennis [車いすテニス]

□8/27~9/1 US Open USTA Wheelchair Tennis Championships(アメリカ/セントルイス)

□9/5~8 Birmingham Canadian Wheelchair Tennis Classic(カナダ/トロント)

□10/17~20 Peace Cup(広島国際車いすテニス大会)



WHEEL CHAIR

初の世界戦と 半年ぶりのマラソン実戦

世界パラトライアスロン選手権大会は、デビュー3戦目で初の国際舞台。今の実力が世界にどれだけ通用するのかを知る絶好の機会と捉えていました。結果によっては落ち込む覚悟もしていましたが、トップから12分以上遅れての1時間13分55秒で10位。手放して喜べる成績ではありませんが、少しずつ進歩できていることを実感でき、まだ素人同然といえるスイム(水泳)とバイク(ハンドサイクル)をレベルアップしてタイムを短縮できれば上位を狙えると前向きに受け止めていました。ポジティブな性格は私の大きな武器のひとつですから(笑)。また、現地での歓迎ムードや熱い声援を目の当たりにして、もっと日本でも「パラトライアスロンを盛り上げたい」とも思いました。

一番の課題はバイクで、自分の力をハンドサイクル(三輪の手こぎ自転車)に伝え切れていないこと。当面は、夏から引き続き自分の体格や体力に適した車種を模索しつつ、競技車のセッティング、軽量化などを図りながら1日20~30キロを走り込み、タイムなどのデータを蓄積していく予定です。

大分国際車いすマラソン大会は1時間28分38秒で3位と振るいませんでしたが、今取り組んでいるスイムとバイクに重点を置いたパラトライアスロンの練習がマラソンの走りにあまり影響しないことを確認するとともに、パラトライアスロンとマラソンを両立できる手応えをつかむことができました。

次の公式戦は来年5月。それまでマラソン大会に出場しながらパラトライアスロンのトレーニングを続けていきます。(副島正純)

実り多きアメリカ・カナダ遠征

前回8ヵ月ぶりの公式戦でブランクによる基礎体力の低下を痛感して以来、6~8月にかけて主に筋力の回復と持久力の強化に努めてきました。その成果は強化合宿での体力測定の数値にも表れ、上々のコンディションで遠征に挑みました。

世界のトップ5も出場したアメリカ大会では世界ランク9位の選手に勝ったものの、同1位の選手に敗れてベスト8でした。半年のブランクでランキングが下がっていたのですが、上位選手と互角に戦えた結果は現時点での世界との差を確認できた大きな収穫でした。

カナダ大会には、主に世界ランク10~20位台の選手が出席。「優勝できる、いや優勝しなくては」という強い気持ちでシングルス優勝、ダブルス準優勝を勝ち取りました。勝因は体力に不安なく戦えたことと、メンタルトレーニングの成果を発揮できたことです。特に準決勝は3時間半に及び、あと2ポイントを失えば負けという瀬戸際まで追い込まれましたが焦ることも萎縮することもなく、試合に勝った自分をイメージして冷静かつ前向きにプレーすることで勝つことができました。

今年最後の公式戦Peace Cupではダブルスこそ優勝できましたが、肝心のシングルスは準優勝という結果になりました。決勝での敗因を分析して今後に活かしています。

来年3月までのシーズンオフではトレーニングの環境や内容を見直し、あらため基礎体力づくりに専念します。(川野将太)